



①地点:嵐の記録

若松北海岸の海岸線には、「白垂の崖」を思わせる美しい景色がひろがっています。中でも、一番といってよい美しい景観と夕日が見られる妙見埼灯台。灯台の下のオレンジ色の崖は、日本海が誕生する前の約3000万年前(新生代古第三紀漸新世)、大陸に湾入した海がつくりだした地層(芦屋層群)からできています。

うねり斜交した地層は、嵐の時に見られるような大きな波の影響でできた地層(ストーム堆積物)と考えられています。化石や地層の研究から、当時、嵐が頻繁に起こっていたことがわかっています。

この地の化石と地層は、地球環境の変遷を知るうえで重要であることなどから平成24年3月26日、福岡県の天然記念物に指定されています。



③地点:化石が密集した地層(化石床)

若松北海岸の海岸線では、化石が敷き詰められたように密集した地層(化石床:かせきしょう)を見ることができます。

この場所では、厚い殻をもったベンケイガイやタマキガイの仲間である約3000万年前の二枚貝の化石(キッシュウタマキガイ: *Glycymeris cisshuensis* Makiyama) が密集したようすを観察することができます。この二枚貝化石は、朝鮮半島の吉州からも知られていて、日本海ができる前、大陸の中に、暖かい海が浸入したことを物語っています。二枚貝の殻がはずれて1枚となっているようすや、多くの殻が、膨らんだ側を上にして地層に平行して重なりあって化石となっているようすも観察することができます。当時、二枚貝に適した生息環境があったことや、二枚の殻をバラバラにするような海水の流れがあり、貝殻を密集させたことなどが推測できます。



⑦地点:千畳敷の不整合

引き潮の時、千畳敷を訪れると、ふだんは水没している部分が大地として広く露出するようすを見ることができます。「亀のこうら岩」の首はなしでは、畳を千畳しける広さに、カメのこうらを何百と集めてできた海岸といわれています。広がった海岸一帯は、約3000万年前の極く細かな砂と泥がリズムカルに交互に重なってできたもので、芦屋層群と呼ばれる地層です。この場所では、キリガイダマシの一種(*Turritella infralirata* Nagao)などの巻貝化石を発見することができます。海岸沿いの崖では、約3000万年前(新生代古第三紀漸新世)の芦屋層群の地層(写真の灰色部)に、約13万年前(新生代第四紀更新世)の岩屋砂礫層と呼ばれる地層(写真のオレンジ部)が重なっているようすを観察することができます。この2つの地層は、できた年代が大きく異なるため「不整合」の関係で地層が重なっていると考えられ、「地層のできたかた」を学ぶための教材としても活用されています。



⑧地点:脇田海岸と鳴き砂

響灘を望む脇田海岸は、海水浴場や釣り場などがあり海洋レクリエーションの盛んな地として、市民に親しまれています。弧状の美しい海岸線をもつ脇田海水浴場付近は、古くから、ふむと音がなる「鳴き砂」が広がることで知られています。海岸線の崖には、約3000万年前の芦屋層群の地層が広く露出していて、破片となった二枚貝や、フジツボがついたウニの化石なども見つかっています。脇田地域では、沖合で採取された海砂をつかった人工海浜の造成なども試みられています。

その他のみどころ

- ②: アナジャコ類の棲み跡の化石(生痕化石)
- ④: クジラ化石の産地
- ⑤: 傾く地層から感じ取る躍動する地球
- ⑥: 探してみよう木の化石(珪化木)
- ⑨: キャベツ畑に海風をもたらす平らな地形(古砂丘)